

米国ハートフォード、第3四半期業績を発表

2008年10月29日 コネチカット州ハートフォード -- ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所コード：HIG、以下「ハートフォード」）は本日、2008年第3四半期（2008年7～9月、以下「当四半期」）において26億ドル（希薄化後1株当たり8.74ドル）の純損失を計上したと発表しました。なお、前年同期における純利益は8億5,100万ドル（希薄化後1株当たり2.68ドル）となっています。連結決算の概要は下表のとおりです。

	四半期業績 (単位：100万ドル、 ただし1株当たりの数値を除く)	
	2008年 第3四半期	2007年 第3四半期
純利益（損失）	\$(2,631)	\$851
希薄化後1株当たりの純利益（損失）	\$(8.74)	\$2.68
利益（損失）*	\$(422)	\$1,060
希薄化後1株当たりの利益（損失）*	\$(1.40)	\$3.33
預り運用資産*	\$384,981	\$419,332
1株当たり純資産	\$41.80	\$60.41
1株当たり純資産 (その他包括利益累計額を除く)*	\$55.63	\$62.53

*GAAP基準によらず計算された「非GAAP」に基づく。

ハートフォード会長兼CEOのラマニ・アイアーは以下のように述べています。「当四半期は当社にとって極めて厳しいものでした。信用市場や株式市場の混乱、そして過去3年間で最大規模となる災害の発生により、当社の業績は著しい影響を受けました。今月上旬、当社は財務基盤を強化するため、アリアンツからの25億ドルの出資受け入れという重大な決定を行いました。ハートフォードはお客様とのお約束を果たすために十分な資金の流動性および資本を確保しており、強固な財務基盤を維持しております」

アイアーはまた、次のように述べています。「極めて厳しい市況下で、各事業において堅調な業績を記録しました。損害保険事業部門の継続事業では、異常災害による損失を除く事故年度コンバインド・レシオは91.8%となりました。これは市場サイクルを考えると非常に良好な業績です。団体保険では、堅実な料率設定を維持しながら販売額は堅調に推移し、保険料収入は伸展しました。またミューチュアル・ファンドと企業年金の販売額も好調でした」

当四半期の正味実現キャピタル・ロス、税引き後22億ドルとなりました。前年同期の正味実現キャピタル・ロス、税引き後2億1,200万ドルでした。さらに当四半期の純損益には、将来の利益見積額の修正（「DACアンロック」）に関連し、税引き後9億3,200万ドルの繰延新契約費の償却が含まれています。なお前年同期にはDACアンロックに関連し、税引き後2億1,300万ドルの上方修正額が計上されています。将来の利益見積額は、繰延新契約費を含む特定の資産と負債の償却費計算に用いられています。

事業部門別業績

損害保険事業部門

ハートフォード損害保険事業部門における当四半期の計上保険料は、前年同期比1%減の26億ドルとなりました。損害保険事業部門の継続事業では、当四半期中、6億6,600万ドルの純損失を計上しました。これには8億2,500万ドルの税引き後正味実現キャピタル・ロスの影響が含まれています。なお前年同期における継続事業の純利益は、3億4,100万ドルでした。

継続事業において、当四半期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは91.8%で、前年同期では90.6%でした。また当四半期の当該事故年度異常災害損失額は、収入保険料の12.7%にあたる3億2,500万ドルを計上しました。当損失額は、前年同期では、税引き前で収入保険料の1.2%にあたる3,200万ドルでした。2008年の異常災害損失額の増加は主にハリケーン・アイクの影響によるものです。さらに当四半期は、主に中小企業労働者向け災害補償保険に関連し、継続事業における責任準備金の過年度調整として税引き前で2.8ポイント、すなわち7,000万ドルの責任準備金戻入額が計上されました。なお前年同期には0.4ポイント、1,100万ドルの責任準備金戻入額が計上されています。

ハートフォードは、当四半期における環境関連責任準備金の年次評価を完了し、税引き前5,300万ドルの環境関連責任準備金の積み増しを行いました。

個人向け損害保険

当四半期における個人向け損害保険の計上保険料は、フロリダにおけるエージェンシー・プロパティ・エクスポージャーに係る更新停止が予定通り行われたことを受け、前年同期比1%減となる10億ドルとなりました。AARP（全米退職者協会）からの当四半期計上保険料は2%増加し、競争の厳しい市場で堅調な伸びを見せました。

個人向け損害保険では、当四半期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは88.3%となり、前年同期は88.7%でした。当四半期の結果には17.2ポイントの当該事故年度異常災害損失額、ならびに過年度調整として0.9ポイントの上方修正額が含まれています。

小規模企業向け損害保険

小規模企業向け損害保険の計上保険料は、前年同期比2%減の6億5,200万ドルとなりました。効果的な顧客維持の取組みが奏功し、当四半期末時点での保有契約高は前年同期から3%増加しました。

小規模企業向け損害保険では、当四半期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは87.7%となりました。前年同期の当レシオは88.5%でした。当四半期の結果には7.0ポイントの当該事故年度異常災害損失額、ならびに過年度調整として6.8ポイントの上方修正額が含まれています。また当四半期には1.3ポイントの契約者配当が含まれています。

中規模企業向け損害保険

中規模企業向け損害保険の計上保険料は、前年同期比3%減の5億5,500万ドルとなりました。計上保険料の減少は1桁台半ばの計上保険料率の低下によるものですが、その影響の一部は新契約および更新維持契約の伸展により相殺される結果となりました。中規模企業向け損害保険の保有契約高は前年同期比4%増となり、新契約保険料は19%の増加を記録しました。

中規模企業向け損害保険では、前年同期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは94.5%でしたが、当四半期は98.5%となりました。当四半期の結果には11.5ポイントの当該事故年

度異常災害損失額、ならびに過年度調整として3.2ポイントの上方修正額が含まれています。また当四半期の結果には0.8ポイントの契約者配当が含まれています。

特定リスク損害保険

特定リスク損害保険では、前年同期比1%増となる3億6,100万ドルの計上保険料を計上しました。特定リスク損害保険における当四半期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは、98.8%となりました。前年同期の当レシオは93.5%でした。当四半期の結果には12.6ポイントの当該事故年度異常災害損失額、ならびに過年度調整として0.5ポイントの上方修正額が含まれています。

生命保険事業部門

当四半期末時点での生命保険事業の預り運用資産は、主に株式市場の低迷により、前年同期末より9%減の3,330億ドルとなりました。生命保険事業では前年同期に5億2,500万ドルの純利益を計上していましたが、当四半期は18億ドルの純損失となりました。当四半期の結果には13億ドルの正味実現キャピタル・ロス、またDACアンロックに関連し、9億4,100万ドルの繰延新契約費の償却が含まれています。なお前年同期にはDACアンロックに係る2億1,000万ドルの上方修正額、ならびに1億6,300万ドルの正味実現キャピタル・ロスが計上されています。

個人向け市場

個人向け投資商品

前年同期に1,838億ドルとなっていた個人向け投資商品の預り資産残高は、当四半期末時点で1,464億ドルとなりました。これは主に株式市場の低迷を受け、お客様の資産残高が減少したことによるものです。当四半期は8億2,200万ドルの純損失を計上しました。これにはDACアンロックに係る7億3,200万ドルの繰延新契約費の償却、ならびに2億8,300万ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれています。

変額年金の販売額は、前年同期は33億ドルでしたが、当四半期は19億ドルとなりました。これは株式市場の混乱により業界全体の販売額が低迷したことや、厳しい競争環境の影響を受けたものです。前年同期は6億3,300万ドルの資金流出額を計上しましたが、当四半期の資金流出額は15億ドルとなりました。前年同期に1,231億ドルとなっていた変額年金の預り運用資産は、当四半期末時点で923億ドルとなりました。

厳しい投資環境にもかかわらず、ミューチュアル・ファンドでは当四半期、堅調な販売額を維持し、前年同期比7%増となる36億ドルとなりました。当四半期の純販売額は、8億1,600万ドルとなっています。前年同期にはリテール・ミューチュアル・ファンドの預り運用資産は478億ドルでしたが、当四半期末時点では409億ドルに推移しています。

個人向け生命保険

個人向け生命保険の当四半期販売額は、前年同期から横ばいの6,900万ドルとなりました。当四半期、ユニバーサル生命保険および終身・定期保険の販売額はともに伸展した一方、変額生命保険の販売額は減少しました。個人向け生命保険の保有契約高は前年同期末より9%増となり、定期保険では19%の伸びを見せました。

個人向け生命保険では、当四半期、1億200万ドルの純損失を計上しました。これには1億1,100万ドルの正味実現損失、ならびにDACアンロックに係る4,400万ドルの繰延新契約費の償却が含まれています。

事業主向け市場

企業年金

企業年金の第3四半期末預り運用資産は433億ドルであり、2007年9月末は286億ドルでした。当四半期の販売額合計は23億ドルで、前年の14億ドルから67%増となりました。預り運用資産と販売額の増加は、先般の企業買収の効果と継続事業の貢献による力強い成長を反映しています。

企業年金は、1億2,300万ドルの正味実現キャピタル・ロスとDACアンロックに係わる4,900万ドルの繰延新契約費の償却を含め1億6,000万ドルの純損失を計上しました。

団体保険

団体保険の自己積立型を除く第3四半期の販売は、前年比26%増の1億5,800万ドルでした。堅調な就業不能保険および生命保険の販売と高い継続率により、自己積立型を除く保険料は前年比4%増の11億ドルとなりました。LIMRA（生命保険販売および代理店経営研究協会）の2008年第2四半期報告書によると、ハートフォードは、年度累計保有契約保険料ベースで、団体就業不能保険では第2位、団体生命保険では第3位を維持しています。

団体保険は、2008年第3四半期、1億8,600万ドルの純損失を計上、これには2億8,700万ドルの正味実現キャピタル・ロスが反映されています。

インターナショナル市場

2008年第3四半期の日本における変額年金販売額は、低迷する市況と競争激化により前年同期比56%減で、933億円（8億6,800万ドル）となりました。当期中の変額年金の正味資金流入額は、412億円（3億8,300万ドル）でした。

日本における預り運用資産合計は2008年9月末時点で3.7兆円（350億ドル）で、市況悪化による特別勘定資産残高の目減りにより円ベースで前年同期末より12%減となりました。インターナショナル事業の2008年第3四半期の純損失は、繰延新契約費調整に係る償却1億1,600万ドルと正味実現キャピタル・ロス3,600万ドルを含め、1億700万ドルでした。

企業向け市場

企業向け販売額は、前年同期の45億ドルに対し、当四半期は8億5,000万ドルとなりました。2008年第3四半期の販売は、現在の市況の影響を大きく受けています。企業向け預り運用資産は2008年9月末時点で607億ドル、前年同期は605億ドルでした。企業向け市場における第3四半期の純損失は3億9,300万ドルとの結果で、その主な要因は3億9,400万ドルの正味実現キャピタル・ロスです。

資産運用

「当社が保有していた金融セクターの株式が当期運用パフォーマンスに影響しました」とラマニ・アイアーは述べています。「当社は先頃グレッグ・マッグリーヴィをチーフ・インベストメント・オフィサーに任命しました。グレッグと彼のチームが、ポートフォリオの安定化と将来の運用パフォーマンス向上のために一連の対策を講じていきます」

第3四半期の売買目的有価証券を除く正味投資収益は、確定期日運用における低利回り、リミテッドパートナーシップおよびその他のオルタナティブ運用における1億100万ドルの税引前損失のため、前年比15%減となりました。なお前年同期には、リミテッドパートナーシップとその他のオルタナティブ運用が4,200万ドルの運用収益を挙げていました。

税引後および繰延新契約費調整後の正味実現キャピタル・ロスは、前年同期の2億1,200万ドルに対し、当四半期は22億ドルとなりました。当四半期の実現キャピタル・ロス20億ドルは有価証券の減損ですが、そのほとんどが金融サービス・セクターへの投資関連で、最近の市場の混乱により打撃を受けたものです。売却可能株式の正味含み損は、2008年9月末時点で、税引後および繰延新契約費調整後38億ドルとなっています。

ハートフォードの株式売買を除く運用額合計は、前年同期の942億ドルに対し、2008年9月30日時点では898億ドルとなっています。信用スプレッドの開きによる評価額の圧縮が、資産価値下落の大きな要因となりました。当社はアリアンツから25億ドルの直接投資を受け、その手続きは2008年10月17日をもって完了しました。現在のポートフォリオ・ポジションと基礎営業キャッシュフローにより、需要に応じ十分な流動性を確保しています。

2008年見通し

ハートフォードは下記的前提条件に基づき、2008年の希薄化後1株当たりの利益は4ドル30セントから4ドル50セントになるだろうと現時点で予測しています。当リリースに記載される見通しは、2008年第4四半期に発生するかもしれない予測不可能な給付金や費用の影響を受けます。過去において、当社が前期の見通しでは予測していなかった異常や予測不可能な給付金や費用が当期になって頻繁に発生しています。

2008年の見通しでは以下の条件を見込んでいます。

- 2008年10月24日時点でのS&P500の指標877を基準に、米国株式市場における年換算利回りが9%
- 2008年10月1日から同年12月31日の期間の、リミテッドパートナーシップおよびその他オルタナティブ運用における税引前の正味投資損失が9,000万ドル
- 2008年10月1日から同年12月31日の期間の、損害保険事業のその他事業における税引前営業損失が4,000万ドル。ただし過去数年、その他事業における営業損失は、見通しで使用される前提条件とは大幅に異なっている。
- 2008年第4四半期、税引前異常災害損失が6,000万ドル
- 日本の変額年金商品においてアカウントバリューが下限値に達したことに関連する、税引後利益の減少額が1億8,500万ドルから2億2,500万ドル
- 2008年通年で、希薄化後加重平均株式残高が3億1,500万ドル

当社の実際の2008年度の結果は、上記の前提条件の多くとは異なる可能性が非常に高いことが予想されます。その要因は、当社のForm10-Q四半期報告書および2007年Form10-K年次報告書で規定したリスク要因、株式市場の変動による運用商品の将来収益予測の大幅修正、事前の予測や見通しが困難な繰延新契約費償却額、当社の実効税率の増減、損害保険事業における損失コスト傾向の変化、前提条件とは異なるレベルの巨大災害損失、長期に及ぶ潜在的な災害リスクの徹底的な年次レビューや環境に係る支払請求およびこれら支払請求における再保険による回収可能性も含むすべての保険事業のための過年度発生支払備金の年次定例レビューから発生する見積りの変更の結果等が挙げられます。

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ・インク
 事業部門別業績
 (単位:100万ドル、ただし1株当たりの数値を除く)

	第3四半期 (7月1日~9月30日)			第1~3四半期 (1月1日~9月30日)		
	2008	2007	増減	2008	2007	増減
生命保険事業部門						
個人向け投資商品(1)	(822)	294	NM	(729)	616	NM
個人向け生命保険	(102)	55	NM	(52)	151	NM
個人向け商品合計	(924)	349	NM	(781)	767	NM
企業年金	(160)	4	NM	(134)	54	NM
団体保険	(186)	83	NM	(78)	235	NM
事業主向け商品合計	(346)	87	NM	(212)	289	NM
インターナショナル(1)	(107)	90	NM	(27)	185	NM
企業向け投資商品	(393)	8	NM	(543)	60	NM
その他	(45)	(9)	NM	(73)	(20)	NM
生命保険事業純利益合計	(1,815)	525	NM	(1,636)	1,281	NM
(-)税引後正味実現キャピタル・ロス (繰延新契約費調整後) (2)	(1,274)	(157)	NM	(1,938)	(254)	NM
生命保険事業利益合計	(541)	682	NM	302	1,535	(80%)
損害保険事業部門						
継続事業						
継続事業引受業績						
個人向け損害保険	(45)	78	NM	78	292	(73%)
小規模企業向け損害保険	82	119	(31%)	270	304	(11%)
中規模企業向け損害保険	(38)	22	NM	14	89	(84%)
特定リスク損害保険	(43)	6	NM	20	50	(60%)
継続事業引受業績合計	(44)	225	NM	382	735	(48%)
正味サービシング収益	14	16	(13%)	21	41	(49%)
正味投資収益	285	346	(18%)	929	1,082	(14%)
正味実現キャピタル・ロス	(1,268)	(72)	NM	(1,455)	(73)	NM
その他費用	(58)	(63)	8%	(180)	(179)	(1%)
法人税	405	(111)	NM	195	(452)	NM
継続事業純利益 (損失)	(666)	341	NM	(108)	1,154	NM
その他事業						
その他事業純利益 (損失)	(108)	12	NM	(91)	4	NM
損害保険事業純利益合計 (損失)	(774)	353	NM	(199)	1,158	NM
(-)税引後正味実現キャピタル・ロス(2)	(930)	(52)	NM	(1,064)	(57)	NM
損害保険事業利益合計	156	405	(61%)	865	1,215	(29%)
持株会社						
持株会社純損失合計	(42)	(27)	(56%)	(108)	(85)	(27%)
連結財務実績						
純利益 (損失)	(2,631)	851	NM	(1,943)	2,354	NM
(-)税引後正味実現キャピタル・ロス (繰延新契約費調整後) (2)	(2,209)	(209)	NM	(3,009)	(313)	NM
利益 (損失)	\$ (422)	\$ 1,060	NM	\$ 1,066	\$ 2,667	(60%)
1株当たり利益						
希薄化後1株当たり利益						
純利益	\$ (8.74)	\$ 2.68	NM	\$ (6.29)	\$ 7.35	NM
利益	\$ (1.40)	\$ 3.33	NM	\$ 3.44	\$ 8.33	(59%)
1株当たり純資産						
1株当たり純資産 (その他包括利益累計額を含む)	\$ 41.80	\$ 60.41	(31%)			
その他包括利益累計額の1株当たりの影響	\$ (13.83)	\$ (2.12)	NM			
1株当たり純資産 (その他包括利益累計額を除く)	\$ 55.63	\$ 62.53	(11%)			

(1) 米国財務会計基準審議会 (FASB) 基準書第157号の適用に係る影響により、2008年第1~3四半期 (2008年1月1日~2008年9月30日) における個人向け投資商品、インターナショナルの純利益は各2億900万ドル、1,100万ドル減少しています。

(2) 利益に含まれていない正味実現キャピタル・ゲイン/ロス。

ハートフォードでは、200%以上の増減、またはネット・ゲインからネット・ロスあるいはその逆の場合の変動を「NM」(該当せず)と定義しています。

将来の利益見積額の修正（「DAC アンロック」）による 2008 年第 3 四半期業績への影響
 （単位：100 万ドル、税引後）

	利益/（損失）
生命保険事業部門	
個人向け投資商品	
個人年金	\$ (721)
その他個人向け投資商品	(1)
個人向け投資商品合計	(722)
個人向け生命保険	(37)
個人向け商品合計	(759)
企業年金	(48)
団体保険	—
事業主向け商品合計	(48)
インターナショナル	(125)
企業向け投資商品	—
生命保険事業損失合計^[1]	(932)
持株会社利益^[2]	9
損失合計	(923)
(+)正味実現キャピタル・ロスの影響 ^[3]	(9)
ネット・ロス	\$ (932)

- [1] 生命保険事業では、特定商品の繰延新契約費に係る資産、販売インセンティブに係る資産、未経過保険料に係る準備金、最低死亡・収入保証に係る準備金を決定する際、将来の利益見積額を用いています。
- [2] 持株会社の項目では、2000年7月のハートフォードによるハートフォード・ライフ・インク株式の買い戻しに関連して行われた、パーチェス法に基づく調整において、将来の利益見積額の修正による影響が及んでいます。
- [3] 利益に含まれない実現キャピタル・ゲイン／ロスに係る繰延新契約費の償却において、将来の利益見積額の修正による影響が及んでいます。

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ・インク
 2008年第4四半期の見通し
 2008年通年の希薄化後1株当たり利益の見通しは4.30ドル～4.50ドル

損害保険事業部門	2008年通年計上保険料 (2007年との比較)	2008年通年 コンバインド・レシオ*	
継続事業	(3%) - (1%)	89.5% - 91.5%	
個人向け損害保険	(2%) - 0	87.5% - 89.5%	
自動車保険	(2%) - 0		
住宅保険	(2%) - 0		
小規模企業向け損害保険	(2.5%) - (0.5%)	84.0% - 86.0%	
中規模企業向け損害保険	(5%) - (3%)	95.5% - 97.5%	
特定リスク損害保険	(6%) - (4%)	96.5% - 98.5%	
*異常災害および過年度に関する増減を除く			
生命保険事業部門	販売額	純増加額	2008年第4四半期 総資産利益率
米国個人年金			個人年金 58-60 bps
2008年第4四半期 - 変額年金	\$13億 - \$18億	\$(25)億 - \$(18)億	
2008年第4四半期 - 定額年金	\$3億 - \$5億	\$(2)億 - \$2億	
日本個人年金			日本事業 50-60 bps**
2008年第4四半期 - 変額年金	¥300億 - ¥700億	¥(3500)億 - ¥(2500)億*	
1ドル=100円での換算値	\$3億 - \$7億	\$(35)億 - \$(25)億*	
*「アダージオ3WIN」に係る3,000億円(30億ドル)の資金流出見積額を含む。 **「アダージオ3WIN」の下限値到達に係る税引き後1億8,500万～2億2,500万ドルの利益の減少を除く。			
リテール・ミューチュアル・ファンド			その他個人向け投資商品
2008年第4四半期	\$25億 - \$33億	\$(18)億 - \$(13)億	10-12 bps
企業年金			
2008年第4四半期	\$20億 - \$24億	\$2.5億 - \$7.5億	13-15 bps
企業向け投資商品			
2008年第4四半期	\$5億 - \$15億	\$(5)億 - \$5億	10-12 bps
団体保険	2008年通年		
自己積立型を除く保険料*	\$43億 - \$44億		
ロスレシオ**	71% - 74%		
経費率**	26% - 28%		
税引後マージン***	7.0% - 7.3%		
* 自己積立型を除く保険料の見通しは、買収に係る保険料、および保険料に類するものを除く。 ** ロスレシオおよび経費率の見通しは、買収に係る保険料を除く。 *** 税引後マージンの見通しは、買収に係る保険料を除く収入合計で利益を除いたもの。			
個人向け生命保険	2008年通年		
保有契約高増加率	8% - 9%		
税引後マージン*	14% - 15%		
* 税引後マージンの見通しは、収入合計で利益を除いたもの。			

「ハートフォード」について

フォーチュン 100 社の 1 社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ・インクは、米国で最も由緒ある大手保険および金融サービス会社の 1 つであり、2007 年における収入は約 259 億ドルに達しています。投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体年金、団体生命保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険などを提供しています。国際事業部門は、日本、英国、カナダ、ブラジル、アイルランドで事業を展開しています。ハートフォードに関する詳細な情報についてはウェブサイトを (www.thehartford.com) をご覧下さい。

また、本リリースには、米国1995年私募証券訴訟改正法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) において定義されている将来の見通しに関する情報が含まれています。投資家の皆様にはこのような将来の見通しに関する情報が、当社の将来の業績を保証するものではなく、また実際の業績は大きく異なる可能性があることをご了解願います。また投資家の皆様におかれましては、当該リスクおよび不確定要素は将来の当社業績に影響を及ぼす可能性があることをご理解いただきたいと思います。このような重要なリスクおよび不確定要素には、米国証券取引法により報告が義務付けられている四半期の報告書 (10-Q) や2007年の年次報告書 (10-K) に記載されている項目が含まれます。また、当社では、本リリース発表後にその内容を更新する義務を負いません。

上述の証券は 1933 年米国証券法 (Securities Act of 1933) に従って登録がなされたものでも、また今後登録がなされるものでもなく、1933 年米国証券法に基づいて証券の登録を行うか又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の募集又は販売を行うことはできません。

以上